

麦類赤かび病の多発が予想されます！追加防除を行いましょ。

5月上旬(7~10日)の調査では、県内各地の二条大麦、六条大麦、小麦において、赤かび病の発生が確認されました。調査ほ場43地点における発生ほ場率は46.5%と高く(平年値4.5%)、発生の多いほ場では3割弱の穂に本病の発生がみられました。令和6年5月9日発表1か月の気象予報では、平均気温が高く降水量が多い見込みであり、今後、本病がさらに増加するおそれがあるため、**追加防除を実施しましょう。**

表1 防除適期

麦種	防除適期
六条大麦	開花始※と開花10日後の2回散布 多発のおそれがある場合、3回目散布
小麦	開花始※と開花20日後の2回散布 多発のおそれがある場合、3回目散布

※：抽出した薬を初めて認めた日



小麦での発生状況(矢印)

本病菌は、人畜に有害なかび毒(DON、NIV等)を産生するため、**農産物検査の規格では、食用の全麦種で赤かび粒の混入限度が0.0%を超えないことと定められています。**

表2 小麦または麦類の赤かび病に登録のある主な薬剤(令和6(2024)年5月10日現在)

農薬名	作物名	希釈倍数	使用方法	使用時期/ 本剤の使用回数	薬剤 系統名	FRAC コード
シルバキュアフロアブル	小麦	2000倍	散布	収穫7日前まで /2回以内	DMI剤	3
ワークアップフロアブル	麦類	2000~ 3000倍	散布	収穫7日前まで /3回以内		
チルト乳剤25	小麦	1000~ 2000倍	散布	収穫3日前まで /3回以内		
ミラビスフロアブル	小麦	1500~ 2000倍	散布	収穫7日前まで /2回以内	SDHI剤	7

- 注1：必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。
- 注2：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、FRACコードが同一のものは連用を避ける。
- 注3：散布の際は収穫前日数を必ず確認する。
- 注4：無人航空機による散布は、一般の散布とは希釈倍数(散布液量)が異なるので注意する。

詳細は、農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X([@tochigi_nousei](mailto:))」、農業総合研究センター
ホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。